

真田坂



- 1面/巻頭言「フリーペーパー真田坂・発刊1周年」
- 2面/特集
第2回「市民参加座談会・JT上田工場跡地再開発」
- 3面/暮らし百科「デジカメ写真活用術」
- 4面/銘店探訪
「上田情報ビジネス専門学校」
- 5面/今月の特選品
ひらばやしママ 推薦
「この夏の“おしゃれ”を楽しもう！」
アサヒエージェンシー 推薦
「広告・宣伝ならA&Aにご相談ください！」
街歩きエッセイ⑦「男達の祇園祭」
- 6面/商店主図鑑
アバマンショップ 黒河内康信氏
コラム“街おこしを考える”
「『改定まちづくり3法』が成立」
- 7面/真田坂的料理
「煮豚・お肉屋さんの“絶品”まかない料理」
売れ残りミュージアム⑦
「地域限定腕時計KAZZROCKと
ZEBBRAのTシャツ」
真田坂の話題の若手
MERMAID'S(マーメイズ) 五十嵐 務さん

特集 ● 第2回
市民参加座談会
JT上田工場跡地再開発

表紙市内在住 ● 小林恭子さん(右)・敦子さん(左)
(メガネのヤジマ・オーナー 矢島嘉豊氏からのご紹介)

第8号 ● 巻頭言

フリーペーパー真田坂・発刊1周年

おかげさまで、フリーペーパー真田坂が発刊から1年を迎えた。昨年の6月15日に誕生し、臨時増刊を含め、今号で第8号となり、その間、まちおこしジャーナリズムという基本姿勢の下、中心市街地活性化のため様々な切り口の特集をメインとした紙面構成で情報を受発信し、号を重ねてきた。その存在が徐々に認識され、地元読者ももとより、上田駅と長野駅で手に取る首都圏の読者が、発行の日を楽しみにしているという声を聞くが、本当にうれしい限りだ。これもひとえに発行に協力して下さる皆様そして、読者の皆様の応援の賜物であり、スタッフ一同、紙面を借りて改めて感謝申し上げる。

さて、本来なら読者の皆様と共に1周年を祝う企画特集が常道だ。が、前号から引き続きJT上田工場跡地を考える「第2回/市民参加座談会・JT上田工場跡地再開発」をお届けする。5月20日(土)松尾町ふん灯舎で行われた市民と商店主たちの座談会、また、前後して開催された上田市とJTの市民公聴会などを紹介しながら、現時点のプロジェクトの行方を考え、大胆な想定もしてみた。実は、母袋創一上田市長に話を伺いたくアポを取ったが、新生上田市議会が開会中であることや合併後の過密スケジュールのためNGとなり、次号以降となる。

市民参加座談会は事前告知が万全でなかったのか真田坂スタッフを含め10名程度となった。一方、上田市とJTの市民公聴会は、商店主、各種団体や中央市街地活性化関連団体の代表などに偏り、一般市民の参加はほとんどなかったようだ。如何に生活者＝消費者としての市民の関心が低いかがわかる。前号の巻頭言でも述べたが、JT上田工場跡地と隣接の民有地を含めた約20haという広大な土地のプロジェクトは、中央市街地の構造を根本から「再構成」してしまうほどの影響力をもつ。さらに、プロジェクトにある大型商業施設が実現すると、中央商店街だけでなく、郊外のショッピングセンターとの競合が現実化し、利用している市民たちにも影響をもたらすのだ。

市当局は年内に「二部敷地の公共利用の検討」に方向性を固めるべく研究会を設置、市民アンケートなどを実施するとしているが、一人でも多い市民が参加し、プロジェクトの「根本」から論議できるプロセスを取ってもらいたいと願うのである。

特集●市民参加座談会・JT上田工場跡地再開発 第2回

上田市とJTが開催した市民公聴会

去る5月19日20日の両日、上田市と日本たばこ産業（JT）が、上田市民会館2階会議室で、上田天神のJT上田工場跡地の利活用に関する初めての市民公聴会を開いた。2日間で145名の市民が出席し、真田坂スタッフも3名参加。商店主や自治会の代表、中央商店街関連団体、また福祉や文化芸術団体などからの出席者ばかりで、一般市民の参加はほとんどなく、消費者としての市民の関心は、相変わらず低い。

既に報道でご存知と思うが、市側から石黒豊助役をはじめ、担当する政策企画局、都市建設部などの部局長、JTからは一倉克利不動産室次長、子会社のフアロンドのフロントティア・リート・マネジメントらが出席し、工場跡地の状況・経緯、開発計画の概要、都市基盤整備の方針と公共施設用地の取得などの説明があった。公聴会の説明は、前号の真田坂・第7号の特集内容と同レベルで、目新しい情報はなかった。市当局の全面取得は財政上ありえず、JTが主体となつてプロジェクトの計画を進め、公共施設用地の一部取得を前提に、市民からの意見・要望の窓口となり、「仮称公共的整備内容に関する研究会」の設置

市民アンケート等の実施を行い、年内に方向性を決めるといふ。公共的整備内容の利用検討の候補施設は市役所庁舎本庁・上田地域自治センター、消防署（広域消防本部・上田中央消防署、総合文化施設（市民会館・総合美術館、総合体育施設）市民体育館・テニスコート）、小中一貫校清明小・第二中、健康福祉総合センター、高齢者福祉センターの7施設を挙げた。前述した研究会と市民アンケートによつては、この候補以外の施設も考えられるとし、施設の方向性が決まつてから取得面積、位置、価格を明確にしたいといふ。

公聴会での市民の質問・意見

参加者からの主な質問や意見を挙げると「経緯説明の中で、平成14年12月にJTから一括売却の申し入れがあり、その後、市当局内で検討組織を設け、平成15年末に購入せず民間の開発に任せると方向性を決めようとしたが、どのような部局の組織で、どこまでのシミュレーションをしたのか等、詳細の説明を。この辺が不明なので、開発反対の市民も多い」との質問に市当局は、概要説明の内容を繰り返すばかりだった。また「JT函館工場跡地再開発は、商業施設などの採算性が合わず、紆余曲折して開発を断念、結果、敷地を切り売りするような売却となった。今回、このような轍を踏まないように慎重を期すと思うが、全体のタイムスケジュールは？」には、「民地の交渉もあり、早急に計画作りに着手したいが未定」とのJT側の回答。そして「賑わいの拠点とどういふ商業施設を考えているのか。規模によつては大きなダメージ

を既存商店街に与えるが」に対してJTは、「上田市は消費者が他地域へ流出している。広域から客を取り戻せるような規模を考えるが、具体的な大きさや進出企業は未定」との説明だった。さらに「民・官とデベロッパー（開発企業を含めたプロジェクトチーム）を作る考えはないか？」という今後のポイントとなる質問に、JT側は「あくまでもJTの土地で、必要な協議は市と行うので、プロジェクトの必要はないと考える」と、市民の要望はあくまでも市当局へ……との姿勢に終始していた。ほかの意見は「是非、〇〇施設を……」などで、公共施設用地の候補を挙げた効果が奏したのか、各団体の要望・希望となり、なにやら施設争奪戦の様相であった。

真田坂で行われた「市民参加座談会」

我がフリーペーパー「真田坂」編集部では、商店会のエゴのみで今回のJT上田工場敷地再開発に批判的行動を取るのではなく、消費者である市民とともに、市民の観点から改めて考えようという狙いで、「市民参加座談会・JT上田工場跡地再開発」と題し、第1回目の市民公聴会の翌日の5月20日（土）、松尾町・幻灯舎で市民と商店主たちの座談会を開催した。

出席者は真田坂発行者、統括担当、編集担当と、JT上田工場跡地の西側の住宅地に暮らす住民、天神1丁目在住の市民、また、市内真田町から参加した方、中央6丁目の商店主、中央商店街の数名の商店主たちだった。暮らしの視点からJT問題を考え、発言しよう……という前提で、冒頭、市民公聴会の概要を報告、1時間30分、さまざまな意見が出された。



5月20日、松尾町フリーペーパー「真田坂」が企画した「市民参加座談会・JT上田工場跡地再開発」が幻灯舎で開かれた。さまざまな意見が積極的に出された

再開発プロジェクトに対する根本的な疑問や、開発への要望などが多く、主なものは「駅前再開発や中央商店街アーケード撤去と電線地中化などで既に300億ほど公金が使われ、財政的に無理なのはわかるが、市当局内で購入せずにJTの開発に任せると判断した経緯に、市民が参加できなかったことに違和感を持つ」。また「必然性のない再開発は止めたい。無理してつくりたくないほうがいいのではないか。オーバーストア時代というのに」。そして「JTは6万坪の一部、商業ゾーンに広域から客を呼べる超大型のショッピングセンターの詳細イメージを既に持っているのではないか？JTがつくるにしても市は開発の許認可権を持つて

専門店のオーナーがご案内する

「暮らし百科」



売りに上げに結びつかないと文句を言われつつやっています(笑)

第7回 デジカメ写真活用術

デジカメの普及によって、写真がより手軽で身近なものとなり、楽しみ方の幅が飛躍的に広がっている。そこで今回は、平林洋品店の店主にして「タウンカメラマン」の肩書を持つ平林敏夫さんに、デジカメ写真活用術を指南していただく。

平林さんの基本は「常時カメラを携帯し、日常のすべてが撮影対象」だ。

「早く言えば給日代わり。花や風景、町の行事に結婚式。さらには仲間と毎月やっている飲み会は、店の人と一緒に出てきた料理も酒も全部撮っておく。それをパソコンで文字入りの組写真に加工したり、CDに入れたりして残し、場合によっては関係者に差し上げたりしています」

上達と長続きの秘訣は、ジャンルを決めずに何でも撮ること。枚数を撮るうちに一枚一枚の構図が決まるようになり、組写真にするための構成も考えながら撮るようになってくる。平林さんの写真ストックは膨大な量にのぼり、中でも貴重な記録となっているのが松尾町の歴史だ。

「松尾町会館に昔の写真がありますが、今の私達も何年かして残るものといえば写真。そこで記録にとっておこうと、町の記録を残すタウンカメラマンの写真が、しばしばこの「真田坂」の紙面を飾ることもなる。

私的な楽しみから社会的な価値を持つ記録まで、あなたもデジカメ必携でシャッターを切ってみませんか。

詳しくは平林敏夫さんへ 電話/0268-22-1825

おり、市民はもつと問題意識を持つべきだ」と、今回の計画に対して一般市民の意識が低いことを心配する声も上がった。買物圏の変化を心配する意見としては「海野町のやおふくが撤退し、今回の開発の影響で駅前イートヨーカ堂がなくなったりすると、中央市街地に住む高齢者の買物が大変なことになる」との指摘が出た。

また、JT敷地西側に暮らす市民は「JT上田工場があったため千曲川護岸道路か、しなの鉄道沿いの道しがなく、通勤や通学が不便で、また、夜などは不安で、治安上心配だった。周辺住宅地の住環境の向上も考えてもらいたい」と要望も。一方「大型商業施設の場合、若者たちがたむろし、逆に治安上大丈夫か？」などの意見も挙がった。さらに開発を見越して「公共的整備内容に関して7種類の公共施設が挙げられたようだが、それら施設の移転後の土地活用など、対案を示したらどうか」などの発言もあった。

とところで、「まちづくり3法」が改正されたのはご存知だろうか。5月24日、国会で「まちづくり3法」のうちの1つ「改正都市計画法」が成立し、郊外での延べ床面積1万平方メートル超の大型商業施設や映画館などの新規出店が制限されることになった。また、同月31日、空洞化した地方都市の中心部にスーパーや病院、共同住宅などを集め、にぎわいを回復させる「改正中心市街地活性化法」が参院本会議で可決、成立し、8月末までに施行することとなった。

これらの動きを受け一部の大手商社は提携先や系列のスーパー・量販店と組み、改正都市計画法にからまない地方都市の駅周辺に立地する広大な土地への「大型商業施設の開発」を狙い始めた。一方、改正中心市街地活性化法を見越し「大型スーパーの再生」と「小型スーパーの展開」の二極化となっていくと予測、地方の有力スーパーの再生や地方都市の再開発に取り組む方針を打ち出し始めた。

このような背景の中、JT上田工場跡地という広大な土地を考えた場合、不動産ファンド、大手の商社、スーパー・量販店にとつて実にオイシイ土地なのである。

今後の方向性を「勝手に想定」する

さて、上田市とJTが開催した市民公聴会の報告と、真田坂編集部が企画した

市民参加座談会の模様、また、まちづくり3法と大手流通業などの動向を見てみたが、ここで勝手に今後の方向性を想定してみたい。あくまでも想像の域の話なので、ご了承ください。

まず、JTが描く計画に出店する大手流通業を考えると、ジャスコを展開するイオンは長野市のオリンピックスタジアム隣接の計画が頓挫し、新たな計画をしているはずだが、数年前、上田店を増床したばかりで今回の出店は無理だろう。そこで、坂城町出身で上田の高校を卒業した鈴木敏文氏率いるセブン&アイはどうだろうか。鈴木氏は上田地域の文化性を知っている上、イートヨーカ堂上田店は、天神商店街や中央商店街に、以前から協力的だったことを振り返れば、JTに計画される大型商業施設と中央商店街の共存を図るには、最適のパートナーである。

そして、改正まちづくり3法の理想的なモデルケースとして、中央商店街まで含めたJT上田工場跡地再開発プロジェクトとして位置づけ、大型商業施設には佐久平から千曲市間での広域商圏を担ってもらう、中央商店街の消費者層の多層化等を狙う。駅前の既存イートヨーカ堂は高齢消



JT上田工場跡地の入口。この広大な土地は果たしてどのようになるのか...

費者をターゲットに福祉分野も含め業態転換し、JT内の大型商業施設に中央商店街のアンテナショップを出店、さらにWebなどを活用した大型商業施設と中央商店街の専門店と連携、商品構成の調整など、さまざまな方策で量販店と専門店の特色を生かした相互補完を完成させる。

一方、松尾町と天神町の連携を図りながら、一体化した街づくりと情報発信事業の展開、販促などを実施する。また、飯島商店西側の坂道を、文化香る小路として整備し、天神2丁目のリヴィンと買物物の小径を連続するように計画、JT内の大型商業施設と積極的に買物物の動線をつなぐ開発を行う。整備費は、上田市が担当する公共施設用地の一部取得と、公共的施設整備を断念してもらい、跡地すべての開発をJTに任せ、数十億になるであろうその予算を投入する、という想定。

シナリオは如何だろうか。少々、好き勝手を書きすぎた。さて、次号の特集では、母袋創一上田市長にJT上田工場跡地再開発について話を伺いたいと考えている。

銘店探訪●上田情報ビジネス専門学校

「ウエジヨビ」の名で親しまれる上田情報ビジネス専門学校が、原町にある1号館・2号館に加え、旧八十二銀行松尾町支店を買い取って、平成17年に3号館として松尾町に進出して約1年。

そもそも、その歴史は「上田の街に社会が必要とされる人材作りの場を作ろう」と、昭和24年に佐藤勲校長が開校した珠算教室が始まりだった。

「すべては学生のために」を基本に据えて、時代と共に進化を続け、現在は情報処理・建築CAD・情報経理・公務員の4科8コースに300名を超える学生が学んでいる。

そして、ウエジヨビといえば特筆すべきが、難関とされる資格試験の合格実績だ。中でも平成6年に公務員コースの課程を開設して以来、公務員試験の合格者数は926名。昨年度の公務員一次試験合格率は驚異の95.8%、168名中161名が合格という数字を残している。また、情報処理国家試験や日商簿記1級をはじめとする資格試験も、県下No1の合格実績という輝かしさだ。平成19年4月には公務員科(1年制警察・消防コース、行政事務コースの新設も予定されている。

「持つてくるのは、やる気、それだけではない。一人一人に本気の指導を」と、今どき珍しい熱血先生たちが「勉強だけでなく、就職指導から人生相談まで、時には厳しく時には優しく、そしてアツク学生に接しています」。

となると、東信地方はもちろんのこと、県内外各地から入校希望者が集まり、「情報ビジネス系の学生数が長野県1位」という結果につながっている。学生数が



減っている県内専門学校の中で唯一気を吐く存在であり、いまひとつ活気と元気が欲しい商店街にとっても頼もしい存在だ。

実際、松尾町のバス停前にある3号館には、「市民ホール」と名付けられた1部屋が一般に開放され、バスの乗降客や買物客のいこいの場となっている。

この4月には、地域の要望にこたえて一般向けのパソコン教室「ほっとたいむ」が開設され、「みんなのまちのパソコン教室」がスタート。さらには、学生がボランティアで花見の時期に上田城跡公園でゴミ拾いをしたり、卒業研究で商店の販売促進に参画したりと、地域とのつながりも緊密で、やる気と元気の発信地となっている。



授業風景



和気あいあいの昼の休憩時間

上田市中央3-7-5
電話/0268-22-0255



上田営業所の田村直也氏。広告・宣伝に関する相談に丁寧に答えてくれる

真田坂●今月の特選品



素材、デザイン、サイズ、柄など豊富な取りそろえてミセスのサマー・ファッションをコーディネート

この夏の「おしゃれ」を楽しもう!

ひらばやしママには、カットレースオパール素材のブラウス、ジャケットや涼しさいっぱいの綿のTシャツ等々が店内にあふれています。サイズ、柄なども豊富な取りそろえ。

オンタイムもオフタイムも、若々しく…より美しく…いたい。お気に入りの一枚からコーディネートまで、お気軽にご相談ください。ペテランのスタッフが、素敵な一枚をお探しします。
「あなたの夢を満たすミセスのファッションは、ひらばやしママでどうぞ。」

お問い合わせ／ひらばやしママ
上田中央1-2-118
電話0268-2271109

広告・宣伝ならA&Aにご相談ください!

効果的かつ効果的な広告を出すにはどうしたらよいだろうか?

そんなお客様の相談に、的確にアドバイスし、セールスプロモーションのお手伝いをするのが、総合広告代理店アサヒエージェンシー(A&A)の仕事です。新聞・テレビ・チラシ・DM・ホームページ等々、広告のことなら何でも!幅広い角度から多彩な提案をいたします。広告は、セールスや知名度の向上だけでなく、信用や安心感を高める効果もありますので、是非お試しください。

お問い合わせ／アサヒエージェンシー上田営業所
上田中央1-4-4 松尾駅前ビル3F
電話0268-2510141

街歩きエッセイ⑦「男達の祇園祭」

祇園祭がまたやってくる。祇園の由来や歴史は話すと長くなりすぎるので割愛する。それ程、永い歴史と由緒がある。

祭りは参加すると、より楽しい。「大変だ、年々体力が落ちてきているから今年はどうかな」と言いながら集まってくる。祇園祭が来ないと夏が来ない。梅雨明け宣言が出るのも丁度この頃。子供の頃は祇園祭が終業式の日で翌日から夏休みだった。

松尾町の神輿は松尾会と末広町の七日会という平均年齢40歳を超える若衆達が仕切っている。本日と呼ぶ祭り当日の2日間に向け、ひと月前から打ち合わせや準備が始まる。その度に飲む。祭り酒はセツトになっていて祭りは男で、男は酒を飲むものだという伝統が残っている。昔は神輿を御守りするとの名目の下に泊り込みで飲み、勢いがつくと上山田温泉へ出動したものだ、と御高齢の先輩達は言う。その位の男気をもてと言うのであれば、当時より商売が難しいのだから先輩なりの寄付を願いたいとの声には、ならばもっと頑張れと切り返される。

では、街の女性達ははどうしているだろうか。男達は店を空け、家を空け伝統の祭りに出掛けて行く。黙って見送り、役員になった女性達は一所懸命、食事や酒の肴を用意し後片付けまで任される。店主が出掛けてしまった店は女性が切り盛りする。祭りに興じ、羽目を外した客が来たら如何しようかとの不安も省みず、男達は店を後にする。口に出さねど感謝しつつ。祭りも街も男達だけでは成り立っていない。(文／増田芳希)

(写真：平林敏夫)



黒河内康信氏 ● 黒河内康信氏



アパマンショップ上田店
上田中央1-4-4
電話 0268-29-8772



上田市から東御市、坂城町にかけてのマンション・アパートの物件情報が常時500件

黒河内さんは、アパマンショップ上田店の立ち上げからの店長だ。「ちょうど6月で3年目に入ったところだ。この店は、駒ヶ根に本社がある株式会社ヤマウラという建設会社が進社して建てているマンションの入居を促進する目的でつくったものです。初年度に比べますと、お客様の来店数も増えていきますし、物件数も増えて成約数も増えていきますので、一昨年より昨年、昨年より今年と、業績は上がってきています。地元のお客様にたくさん来ていただけるようにして、この地域No.1になれる店にしたいと思っています」

と、爽やかに話してこやかに話してくれる黒河内さんは、まさに上田駅前・松尾町の入口の顔にふさわしい。町の声も、物件を紹介しつつ放しではなく、その後の対応・フォローがいいから、最終的に数字として出ているのでは。それは、店長はじめスタッフ3人の人間性によるのだろう」と評判が高い。黒河内さんは、埼玉県上尾市の出身だ。「もともと父は伊那の出です。信州はともいえると思います。好きですね」と顔が輝いたところを見ると、もしかや：「ええ、アウトドア、大好きです。それで長野にきたよなものです。釣りは、溪流もやれば湖もやります。こちらに来た当初は、しょっちゅうスキーにも行っていたんですが、逆に近すぎずあまり行かなくなっちゃって（笑）。アウトドア好きには最高

の場所ですね」長野県全域から首都圏にも拠点網を広げるヤマウラでは、転勤移動もありそうだが、「地元を中心にしている会社なので、あまり移動がないんです。3年5年といった頻度で移動すると、お客様と顔がなくなってしまうという時にまたゼロになってしまうのでやりにくい。不動産や建設の業界は、生活の根幹ですから、地域に根ざして貢献できる店にしたいと思っています」日焼けした顔が、公私の充実ぶりを物語る。



アパマンショップ上田店長の黒河内康信氏

コラム「街おこしを考える」⑦ 「改定まちづくり3法」が成立

特集でも述べているが、「まちづくり3法」が改正されたのは、ご存知だろうか。都市計画法と中心市街地活性化法、大規模小売店舗立地法のいわゆる「まちづくり3法」の施行に伴って、国は毎年、総額1兆円規模の関連予算を組んできたが、中心部再生で思うような政策効果がなかなか上がっていない。結局は補助金のばらまきに終わっている」と悪評が高かった。

一方、まちづくり3法が出そろった2000年以降も大型商業施設の郊外立地や、病院などの公共施設が中心部から郊外へと移転する動きが続き、中心市街地の空洞化が止まらなかつた。このような状況下、「まちづくり3法」の見直しが行われ、「改正都市計画法」と、「改正中心市街地活性化法」が、先月、国会で可決、成立した。「改正都市計画法」は、郊外において延べ床面積1万平方メートル超の大型商業施設や映画館などの新規出店を制限する。

また「改正中心市街地活性化法」は、空洞化した地方都市の中心部にスーパーや病院、共同住宅などを集め、にぎわいを回復させることを目指すもので、8月末までに施行する。その特徴は内閣に新設する「中心市街地活性化本部」で市町村別の活性化計画を審査し、意欲的で成果が見込める地域を重点的に支援する仕組みが挙げられ、数値目標を掲げるなど計画の達成度合いを検証できる内容が、また、地域ぐるみで実行する体制ができていくか―等が審査のポイントになる。具体策として、中心部で公共施設の建設費用を補助する「暮らし・にぎわい再生事業」の創設、市町村の都市再生整備事業に充てる「まちづくり交付金」の拡充を盛り込んでいる。さらに、空き店舗へのスーパー出店などの際に煩雑な手続きを免除する大規模小売店舗立地法の特例を設けている。

さて、この改定でコンパクトシティ（空洞化した中心市街地に都市機能を集約し地方都市を再生させる）の実現が図れるのだろうか。

真田坂的料理 第7回 煮豚

お肉屋さんの美味！簡単！まかない料理



今号の先生は、肉の老舗「但馬軒」の三代目店主・佐藤高和さんだ。「夏の一杯といえはこれですよ」と、いきなり梅雨を飛び越え夏モード。涼しげなしつらえに枝豆とビールまで添えて、気分は早、夕涼みの一杯タイムになっている。

「この煮豚は、どちらかと言えばまかない食なんです。店にはオープンで焼いた焼き豚を出していますが、家庭で簡単にできるといったら煮豚です」

作り置きすれば、冷蔵庫で1週間前後保存で

- 材料
- 豚バラ肉 400g前後の固まり3本
 - しょうゆ 300cc
 - みりん 200cc
 - 酒 200cc
 - うま味調味料 少々

- 作り方
1. 肉に約1センチ間隔でたこ糸を巻く（巻き方がわからない方は店頭でお尋ねください）（脂が気になる方は、お湯でポイルして脂を抜く）
 2. 厚手の鍋にすべての調味料と肉を入れ、落としふたをして強火にかける。
 3. ふっとうしてきたら弱火。
 4. 10分おきくらいに引っ繰り返したり、並んでいる場所を入れ替えたりする。
 5. 1時間くらいで竹くしが通るようになれば火が通った証拠。（不安な場合は、包丁で半分くらい切って中が赤くなければOK）火を止めて出上がり。

協力/但馬軒 佐藤高和さん
上田市中央2-6-2
電話/0268-22-0118

真田坂の話題の若手

MERMAID, S (マーメイズ) 五十嵐 務さん



「新しいメニューはどんどん取り込んでいます。一番新しいのは形状記憶のデジタルパーマ。普通のパーマではすぐに取れてしまう人とか、ウェーブがつぶれやすい人におすすです」

「ゆとりを持ってくつろげる空間の頭皮ケアやオリジナルシャンプーの開発等々、「うちでしか出せないもの」にこだわる新進気鋭だ。」

上田市中央1-1-18
電話/0268-25-1381

日本のラップ好き 憧れのブランド品



売れ残りミニユニフォームの地域限定腕時計KANZROCKとUNIFORMERASTシャツ

エフェクトは、大人気NEWERAの正規取扱店でもある

ヒップホップやラッパー、DJなどのブランドを扱うエフェクトで、イチオシの売れ残りがこれ、地域限定腕時計KANZROCK（カズロック）だ。「スプレーで壁などにアートするグラフィックアーティスト・カズのオリジナルブランドで、日本を6ブロックに分けて売り出した地域限定腕時計です。信越北陸ブロックはバンドがブルー。うちで仕入れた6コのうち、残りがあと3コになりました」と代表取締役の徳永恒雄さん。

ラッパーの中のラッパーと讃えられるジブラのブランドZIGGY ZI LLOWNのTシャツZEEBRAも、県内唯一の取扱店として希少価値に輝いている。

「両方とも日本のブランドですが、だいたい地域1店舗と決まっているので、はつきり言って早い者勝ち。いち早くコンタクトして契約を結ばないと、他にうもっていかれてしまう」と徳永さんが言うように、店には先見の明とこだわりで選んだブランドの品々が並んでいる。「ダブルハードやジブラの弟のスイヤ、GKM等々、日本のラップ好きには憧れのブランドばかりです」

商品自身が音楽や踊りの要素を持ってパワフルに迫ってくる中で、いつの間にかリズムに乗って軽やかに踊りだしたくなってしまおう。

お問い合わせ先/エフェクト
上田市中央1-3-7 電話/0268-210201
<http://e-effect.jp/infoseek.co.jp>



16本骨傘

雨のオシャレは魅せる傘

Rayの傘はそこの傘とちょっと違います。
16本の骨組みにより、頑丈さと円に限りなく近い広面積を実現しました。
布面積はなんと100cm。傘のありがたみを感じる優美なサイズです。



Colors
1,980円(税込)



ステッププレス
7,800円(税込)



ハンガーに掛けたまま
瞬時にシワ伸ばし!

スチームアイロン

コンパクトで
電力800Wのメガパワー

(税込) 大特価! ¥1980

●アタッチメントを外せばなんと通常のアイロンに大変身!

まさに1台2役!

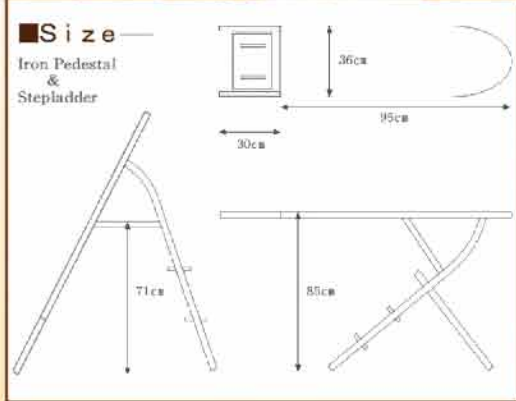
クルって回して!!

Color

■クリアオレンジ

■クリアグリーン

(クリアブルーは完売しました)



履くだけで足がスリムに!!
スチューデスや看護婦さんに大人気

むくみとリップ

スリッパ

【色】紺・ピンク

☆履き心地は抜群☆

2,940円(税込)

土踏まずの部分に青竹状のプラスチックが入って履くと同時に青竹踏みの効果が得られるスリッパです。
スチューデスや看護婦さんなど立ち仕事の女性が絶賛する理由として「履いているだけでむくみや疲れが取れるから」です。

【サイズ】
M: 22.0~23.0
L: 23.5~24.5

土踏まずの部分のカーブと適当な重さが「熟練職人の技」。この判断はもう病みつきです!



履くだけで
かかとつるつる
かかとサポーター

チタンパワー

保温 保温
体温を逃がさないのかかとあったか 水分保持でいつもかかとしっとり

男女兼用フリーサイズ
1,200円(税込)

※写真は本品を模してあります

全ての商品(約200点)はインターネットでご注文頂けます <http://STORE.LBNET.JP>

ファックスでご注文の場合は以下の注文書をご利用下さい (Fax:0268-22-5449)

お電話 (Tel:0268-22-0766) でお注文後、ご来店頂いても結構です

編集後記

フリーペーパー「真田坂」が発刊から1年を迎えた。毎号、いろいろな方に取材しているが、さまざまな反響があり、ずっしりとした手ごたえを感じるメディアとなった。これも読者の皆様、ご協力いただく皆様のおかげ。本当に感謝申し上げます。さて、今回の特集の取材で「J T跡地再開発市民公聴会」に参加した。「未定」という言葉の連呼を聞き、正直、「おいおい」と、思ってしまう状況だった。(安藤)

「真田坂」がめでたく1周年を迎えることができ、喜ばしい限りです。私も、方々の専門店へネギを背負って出かけていく葱田鴨子となって1年。おかげさまで多くの知恵を授けていただき、先頃新ジャンルのエッセイをものしてお手当をいただき、ネギを少々補充できましたことを、感謝とともにご報告いたします。(葱田)

発行日 ● 2006年6月15日
発行 ● 松尾町商店会 (会長 矢島嘉豊)
第8号編集委員 ● 副会計 滝沢善郎 企画部 ● 一之瀬公 市商連担当 ● 志摩充彦 町田和幸
タウンカメラマン ● 松尾町商店会副会長 ● 平林敏夫
タウンライター ● 企画部 ● 増田芳希
取材 ● 安藤州平 ● 葱田鴨子
企画編集 ● 真田創造工房 ● 安藤州平
印刷 ● 中外印刷株式会社
ご意見、ご感想、ご要望はFAXでお願いします。FAX ● 0268-72-0222

商品名	数	金額	色・サイズ

合計金額:

お名前:

ご住所:

お電話番号:

商品は代金引き換え便にてお送りします。
上記合計金額の他に代引手数料(315円)と送料(840円)がかかります。
※お買い上げ金額が1万円以上の場合は送料サービス